



日本政府、イラクのISIL解放地域における爆発性危険物対策事業に追加支援

2019年3月28日、バクダッド：国連地雷対策サービス部（UNMAS）は、日本政府からの162万5千ドルの財政支援を歓迎致します。本支援は爆発性危険物の脅威軽減を通じた、人道・安定化支援です。

橋本尚文駐イラク共和国日本国大使は、「日本は、爆発性危険物対策を支援する本事業を含め、総計約6,300万ドルにのぼる新規対イラク支援を決定した」と述べられました。また、大使は、避難民の元のコミュニティへの帰還支援をはじめとして、日本がイラクの復興に向けて、人道・安定化支援を継続してきた旨強調しました。

UNMASはパートナー団体と共に活動し続け、イラクの中でも特にイスラム国（ISIL）から解放された地域における活動に重点を置いています。日本のみなさんによる本支援は、UNMASによる爆発性危険物対策活動を支援するものです。UNMASは爆発性危険物による脅威に対し、爆発物の管理、能力強化、危険回避教育の3つの活動を通じ戦略的かつ総括的に取り組んでいます。爆発物の除去、現地政府機関の強化及び地域コミュニティとの協働によるこのような活動は、爆発性危険物の脅威に対してダイナミックかつ現実的なアプローチを可能にします。

日本のみなさんからの今回の支援により、危険回避教育活動の一環として国内避難民キャンプでイベント「セーフ・ラン（Safe Run）」が開催されました。このイベントでは、キャンプに暮らす子どもたちが2キロのランニングを行った後、ビデオ上映や質問コーナーによる爆発物性危険物に対する危険回避教育を受けました。

森安克美在エルビル日本領事事務所所長は、イベントに参加した子どもたちに対し、「今日のイベントで学んだことを活かし、みなさんが十分に注意し安全に行動することを心から願います。みなさんが、地雷等の犠牲に遭うことなく、外で安全に遊び、学校に通うことができるように、みなさんのご両親、政府当局、UNMAS、そして地域社会及び国際社会は、引き続き地雷のない社会に向けて緊密に取り組む続けることを約束します」と語りかけました。

UNMAS シニア・プログラム・マネージャーのロードハンマー・ペアーは、「ISILから解放された地域にはいまだ多くの爆発性危険物が残されており、被害者となりやすい子どもたちを含めた地域住民に対して深刻な脅威となっています。爆発性危険物の処理に対する支援や、危険回避教育として行われた今回の「セーフ・ラン」などによる日本のみなさんの支援は、イラクにおける人道・安定化活動に今後も寄与していくことでしょ

日本政府は UNMAS のイラクにおける爆発性危険物対策事業の重要な支援者であり、拠出額は 2016 年以降通算で 1,440 万米ドルに及びます。

連絡先

ロードハンマー・ペアー、UNMAS イラク・プログラム、シニア・プログラム・マネージャー、lodhammar@un.org